ラオスを通して、見る文化・歴史・現代社会

所　属	うるま市立彩橋中学校	実践者	宮城一徹
対　象	中学1～3年	時間数	10 時間
担当教科	社会科	実践教科	社会
ねらい	・ラオスの生活文化から、世界の地理や歴史、現代社会の諸問題を見ることで社会的事象への意味を考え、理解し主体的に行動する態度を育てる。		

実践内容	回	プログラム	備　考
	1	**「生活に息づく文化」** ・世界各地の人間の生活に欠かせない「衣服」「食」「住まい」の違いをみることで、世界には多様な文化を持って生きる人たちがいることに気づく。	パワーポイント資料（現地の写真資料）
	2-1	**「家族のなかで生きる私たち」** ・ラオスの病院での患者家族の写真を通して、家族のあり方や「かけがえのない家族」をどのように築いていくのかを考える。	ラオス学生のインタビュー資料
	3-2	**「文化の継承と創造」** ・ラオスの染織物文化から、伝統的な文化をどのように次の世代に継承するのか、また発展させるのかを考える。	ラオスの伝統衣装（シン）
	4	**「世界の子どもたちと協力できることを考えてみよう」** ・日本と宗教も文化も異なる、同じ世代である世界の子どもたちが直面している課題に目を向ける。	世界の様々な地域の写真資料
	5-3	**「国際社会における日本の役割」** ・平和主義を掲げる日本人がラオスで活躍する姿から、国際社会における日本の果たすべき役割を考える。	不発弾処理を行う宇良さんの活動の様子
	6	**「国際社会のより良い発展」** ・私たちが世界の人々と共存していくためには、どのようにすればよいのかを考える。	フォトランゲージ
	7	**「東・東南アジアの文明の広がり」** ・ラオスの仏教信仰から、仏教のおこりと広まりについて、ブッダの想いを読み取っていく。	袈裟（仏教衣装）

成　果	・授業の形を一斉型から参加型・体験型の学習の形態にしたことで、生徒の興味・関心を引き出すことができた。 ・現地で得た「生きた資料」を活用したことで、授業に幅と深みを持たせることができた。
課　題	・写真資料や映像資料が多く、ラオスの統計資料や日本との結びつきがわかる資料が少なかったために、より多面的・多角的に社会的事象を読み取ることができなかったのが課題として挙げられる。
備　考	

[授業実践の詳細]

この時限のねらい
・ラオスの病院での患者家族の写真を通して、家族のあり方や「かけがえのない家族」をどのように築いていくのかを考える。

2-1時限目 『家族のなかで生きる私たち』

1 子どもの活動の流れ

① フォトランゲージの手法をとおしてラオスの写真①と写真②から、その建物が何で、写真の人たちの職業を読み取らせて挙げてもらう。
② 病室の様子の写真③と④から、家族は見舞いではなく、病室で鍋などの日用品を持ってきて、患者と生活を共にして、常に家族と過ごすことを大切にするラオスの家族のあり方を紹介する。
③ ラオスの学生のインタビューの中からも、家族を大切にするラオスの人々の意識を読み取っていく。
④ ラオスの家族の様子から、わかったことをワークシートにまとめ、さらに自分ならどのような家族を築いていくのかを記入する。

2 子どもの活動の成果・反応

◇ラオスでは、病室で家族が寝泊りするのが、面白く家族の絆が深いことがわかった。
◇ラオスでは、畑仕事を家族みんなでやるから、仲がいいのかなって思った。

【生徒の感想より】
◇インタビューの質問で「幸せを感じる時は何？」という質問で、生徒の多くは「スマホをいじっている時」や「寝ている時」、「部活をしている時」などが多かったが、ラオスでは、『家族と一緒にいる時』などが多く、その違いが、生徒の興味・関心を引き出し、家族に対する意識に変化があった。

3 使用した教材

写真①

写真②

写真③

写真④

⑨今の幸せを感じる時は何？ ความสุขที่คุณรู้สึกเป็นอย่างไร?
みんなでいっしょにいます

ラオスの子どもへのインタビューの質問から

4時限目 『世界の子どもたちと協力できることを考えてみよう』

1 子どもの活動の流れ

この時限のねらい
日本と宗教も文化も異なる、同じ世代である世界の子どもたちが直面している課題に目を向ける。

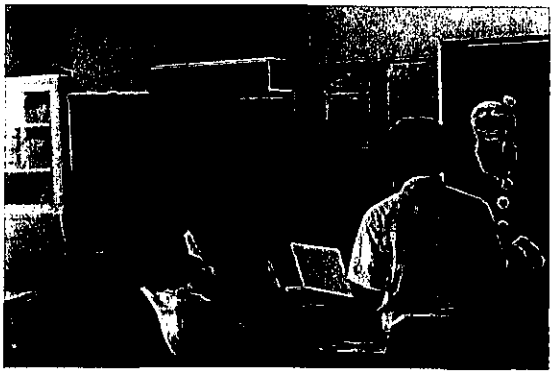
① サンタからのプレゼントとして、世界の子どもたちの写真を渡す。
② フォトランゲージの手法から世界の子どもたちの写真から気づいたことやどの地域なのかを話し合わせる。
③ 子どもたちが直面している課題を続けて、写真から考えさせる。
④ ラオスの子どもたちが抱える不発弾の現状について説明する。
さらにラオスの子どもたちの希望となる鍵が日本にあることを2枚の写真から示す。
1枚目「不発弾処理に取り組む沖縄の人」　2枚目「オリンピック」
⑤ 沖縄の不発弾の処理の写真からラオスの子どもたちと沖縄の子どもたちの抱える問題が同じであることに気づかせる。

2 子どもの活動の成果・反応

◇発展途上国だけでなく、先進国でも、テロなどの課題があることがわかった。
◇ラオスでは、沖縄と一緒で不発弾があることがわかった。

【生徒の感想より】
◇話し合い活動を取り入れたことで自分自身の考えや感情、体験してふりかえってみたことを他の生徒に伝えたり、聴いたりすることで、安心感が生まれ学習する雰囲気が優しくなった。

3 使用した教材



パワーポイント資料

世界の子ども達の写真

ホワイトボードを活用した話し合い活動

4時限目 「文化の継承と創造」

この時限のねらい
ラオスの染織物文化から、伝統的な文化をどのように次の世代に継承するのか、また発展させるのかを考える。

1 子どもの活動の流れ

① ラオスの伝統衣装(シン)を着て登場する。シンがラオスの女性の伝統衣装であることを紹介する。生徒にシンを実際に触れて感想を挙げてもらう。

② シンができるまでの作業の様子を動画で見せる。その作業が難儀であることに気づかせる。伝統的な織物産業の厳しさについて説明する。

③ ラオスの伝統織物文化の発展のために、励む、青年海外協力隊員のインタビュー動画を見せる。

④ 沖縄の伝統文化を、どう守るのかを話し合わせ発表させる。

⑤ ラオスで少女が指導を受けながら、織物を織る写真を見せてまとめる。

2 子どもの活動の成果・反応

◇沖縄の文化を守るために、沖縄の方言を学校で教える。

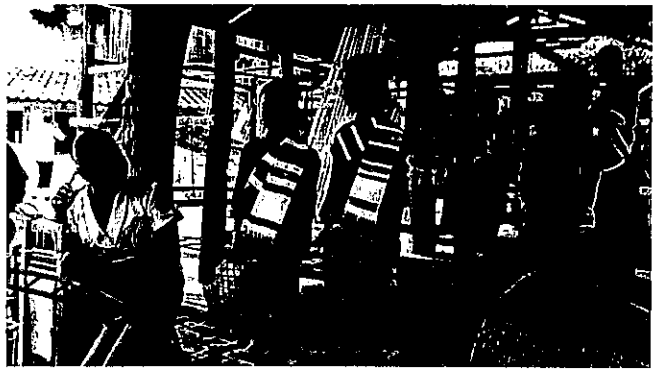
◇ラオスの少女のように、小さい頃から沖縄の伝統文化に触れさせウチナー文化を守る。

【生徒の感想より】

◇伝統文化の継承・発展はラオスのみならず沖縄にとっても重要な課題である。ラオスの現状をみることで、伝統文化を継承するヒントを生徒が得ることができた。

3 使用した教材

織物作業の動画



ラオスの伝統衣装(シン)

織り作業を学ぶ少女

5時限目 『東・東南アジアの文明の広がり』

この時限のねらい
ラオスの仏教信仰から、仏教のおこりと広まりについて、ブッダの想いを読み取っていく。

1 子どもの活動の流れ

① ラオスの袈裟を着て登場する。袈裟がラオスでは、お坊さんの衣装であることを紹介する。生徒に袈裟や托鉢を実際に触れて感想を挙げてもらう。
② 托鉢をする写真から、なぜお坊さんは、自分でご飯を作らず托鉢をするのかを考えさせる。
③ 仏教の人生観と基本的な教えを説明して、日本の行動・生活様式に影響を与えていることを気づかる。
④ ラオスでの修行に励むお坊さんの生のお経を聴かせる。
⑤ 袈裟姿で街中を歩いての感想を生徒に伝える。

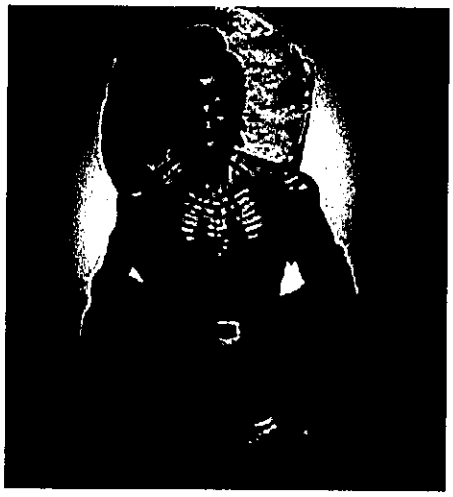
2 子どもの活動の成果・反応

◇お坊さんの坊主頭の意味がわかった。
◇人生を、真っ直ぐに向き合って生きたブッダの生き方に感動しました。

【生徒の感想より】
◇日常の行動や生活の場面に仏教が影響を与えていることを改めて認識することで、日本の文化や死生観に対する理解を深めることができた。

3 使用した教材

修行に励む坊さん(朝の托鉢風景)


ブッダの像

国際通りを歩く坊さん